

## 高1生・高2生(新高3生) 古文レベルチェック

〔解答時間二〇分、満点二五点、辞書・参考書は使用不可〕

### 1 傍線部の助動詞の意味、終止形、活用形を書きましよう。

(例：推量「べし」連体形)

- ① 涙落つとも覚えぬに、枕浮くばかりになりけり。
- ② 住まひのさまなめりかし。
- ③ 興もさめて、事苦うなりぬ。
- ④ さもありぬべきことなり。
- ⑤ 船出ださずなりぬ。

### 2 傍線部の敬語の種類(尊・謙・丁)、敬意の方向(誰から誰へ)を書きましよう。

(大将殿(光源氏は、病に悩む六条御息所を心配して訪問する))

大将殿聞きたまひて、「いかなる御心地にか」と、いとほしう①思し起こして渡りたまへり。(中略) 悩みたまふ人の御ありさまも、憂へ②きこえ③たまふ。「みづからはさしも思ひ入れ④はべらねど、親たちのいとことしう思ひまどはるるが心苦しさに……」など、語らひ⑤きこえたまふ。

### 3 以下の単語の古文単語としての意味を書きましよう。

- |        |          |
|--------|----------|
| ① あたらし | ② かなし    |
| ④ 眺む   | ⑤ 頼む     |
| ⑦ まもる  | ⑧ えく打消   |
|        | ⑨ さらにく打消 |

### 4 本文を読み、内容に合う選択肢を三つ選びましよう。

心のどかに暮らす日、(私と夫は)はかなきこと言ひ言ひの果てに、我も人も悪しう言ひなりて、うち怨じて出づるになりぬ。はしの方に歩み出でて、幼き人を呼び出でて、「我は今来じとす」と言ひ置きて出でにける。すなはち這ひ入りて、おどろおどろしう泣く。「こは何ぞ何ぞ」と言へど、いらへもせで、「論なう、さやうにぞあらん」とおしはからるれど、人の聞かむもうたてものぐるほしければ、問ひさして、とかうこしらへてあるに、五六日ばかりになりぬるに音もせず。

〔蜻蛉日記〕

- ① 妻は、ささいなきつかけで夫と口論になり、最終的に家を出て行くことにした。
- ② 二人は何ヶ月も喧嘩がちで、ついには音信不通になってしまった。
- ③ 家を出る側は、二人の子である「幼き人」をわざわざ呼び出し、「ここにはもう来ないつもりだ」と言い残した。
- ④ 家に残る側は、散々泣いた結果、声までも囁らしてしまった。
- ⑤ 家に残る側は、出て行った者が子どもに何と言ひ残したかを執拗に問い詰め続けた。
- ⑥ 夫婦喧嘩をして数日経っても、仲直りをするきっかけもない状態が続いていた。
- ⑦ 子どもが泣きじゃくるのに困り果てた親は、子どもになぞなぞを出して気持ちを紛らわせた。
- ⑧ 家に残る側は体裁を気にし、子どもに質問するのをやめ、なだめることに専念した。
- ⑨ 家に残る側は、自分が相手のことをまだ想っているのを、当の相手に悟られることを嫌がった。